

# 日本ペイントホールディングス株式会社



## グループ全社 IT システムの全体最適を目指し シスコ ハイパーコンバージド インフラを採用



### 製品 & サービス

- ・ Cisco HyperFlex システム

### 課題

- ・ 代替環境、バックアップ、冗長構成などが個別最適設計の IT インフラの見直し
- ・ 従来型サーバ、ストレージの運用、管理負荷増大

### ソリューション

- ・ Cisco HyperFlex により IT インフラをリソース プールとして最適化
- ・ ファブリック インターコネクト (FI) により外部ストレージ リソースの活用が容易に

### 結果～今後

- ・ 国内グループの IT システム全体最適化により、ビジネス アジリティを高める

アジア No.1 総合塗料メーカーからグローバル ペイント メジャーへと挑戦を続ける日本ペイントホールディングス株式会社は、グループの IT システム全体最適を目指し Cisco HyperFlex システムを採用。運用開始から 1 年ほどが経過した現在、大きなトラブルもなくコストとスピード、運用性でのメリットを最大限に享受しつつグループ全社のシステム統合を進めています。

**Cisco HyperFlex システムは高度に設計されたホワイト ボックスという印象です。ビジネスのアジリティが高まる中、安定して動く、予測可能なシステムがある安心感は大きいです。**

— 日本ペイントホールディングス株式会社  
情報システム部 Infra & Apps 統括 / システム企画推進グループ マネージャー  
神原 謙一 氏

### 課題

日本ペイントホールディングスは、2014 年の持ち株会社制への移行前から、社内 IT システムの集約と最適化への取り組みを続けてきました。日本ペイントホールディングス株式会社 情報システム部 Infra & Apps 統括 / システム企画推進グループ マネージャー 神原 謙一氏は、当時の課題と同社の設計思想について、次のように語ります。

「当社は 2002 年から数年かけて、メインフレームをオープン環境に移行しました。それまでの社内 IT システムは個別最適での設計であり、バックアップや冗長化などが予算見合いで思うようにできない、などの課題がありました。そこでメインフレーム移行のタイミングで、IT システムのデザインを全体最適の観点から見直したのです。データ バックアップ、ジョブ コントロールなども全体として行った方が、安全かつトータルコスト、運用性でメリットがあるだろうとの考えです。その観点で、仮想化プラットフォームを 2005 年ごろから利用していますが、従来型の IA サーバとストレージの運用に課題を感じていました。徐々に台数が増え、型やスペックが混在して管理が複雑化してきたこと、サーバとストレージ間の接続など、アプリケーション レイヤに比べインフラ部分が旧態依然であることが不満でした。」

そんな折、神原氏は Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) についての情報を目にします。当初は「なぜシスコがサーバを？」と疑問に感じたそうですが、シスコから説明を受けて設計思想に共鳴。特に Cisco UCS Fabric Interconnect (ファブリック インターコネクト、以下 FI) に魅力を感じたといいます。



日本ベイントホールディングス株式会社  
情報システム部  
Infra & Apps 統括 / システム企画推進グループ  
マネージャー  
神原 謙一 様

「サーバ自体もメーカーの色がついていない、わかりやすいデザインと感じましたが、FIが含まれている点が他と大きな違いでした。他のメーカーだと、ある程度のカタマリでの導入前提で部分追加しにくいのですが、Cisco UCS と FI であれば必要なときに部分追加可能で、当社の発展するインフラにピッタリではないか、と考えたのです。」(神原氏)

その後、サーバ更改のタイミングを見極めていたところ、サーバに加えストレージまで一体で提供されるハイパーコンバージド インフラ、Cisco HyperFlex システムが発表となり、導入を決断しました。

## 必要なときに部分追加可能な設計思想が 発展を続ける当社の IT インフラに最適

### ソリューション

同社グループの IT インフラは大きく 2 つあります。1 つは VDI デスクトップ用途、もう 1 つはユーザ部門と全社のサーバです。本番環境だけでおよそ 120、開発環境を含めると 150 以上のサーバを保有しているとのこと。そのネットワーク、サーバ、ストレージを全体システムの共通リソース プール、という考え方に基づいて設計。その基盤として Cisco HyperFlex システムを活用しています。

選定のポイントとメリットについて、神原氏は次のように語ります。「期待効果としてはコストとスピード、そして代替環境、冗長構成の組みやすさ、です。Cisco HyperFlex システムは、インフラ部分を論理的に 1 つとして扱える運用性と、ネットワークの環境を活かせるインフラとしてパフォーマンスに期待しました。シスコはネットワーク機器で当社でも長年の実績があり信頼感がありましたし、そして、必要に応じて外部ストレージも活用したいと考えていますので、なんとと言っても FI の有用性が採用の決め手です。」

### 本来やるべきところに時間がさける

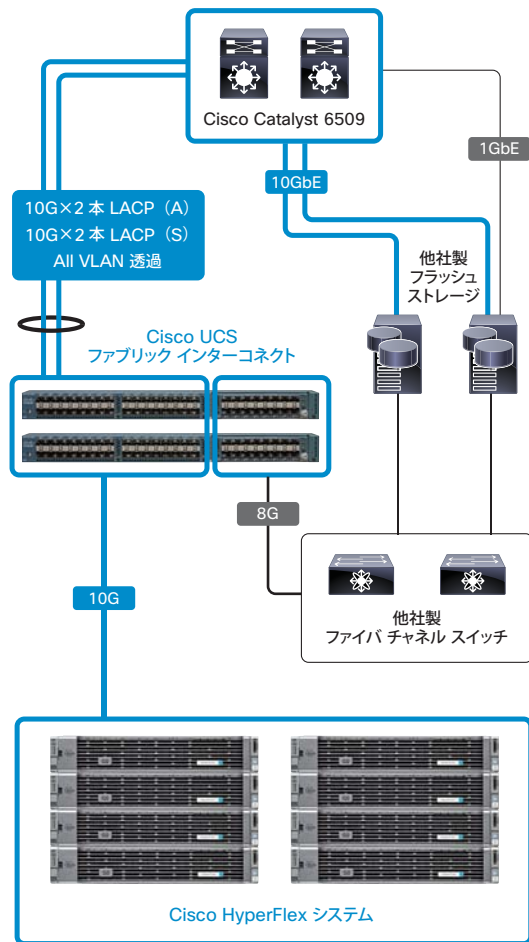
#### ハイパーコンバージド インフラのメリットを実感

実際に導入してみたの感想は「まず、メーカー特有の味付けがなく、シンプルで扱いやすい。高度に設計されたホワイト ボックス、という印象です。VMware による仮想環境だけ意識していれば、ハードウェアに関しては意識せずに使えて、導入して 1 年以上、トラブルらしいトラブルもまったくありません。パフォーマンスに関しては正直、実環境ではどうなのか不安もありましたが、これも期待通りで、杞憂に終わりました。ハイパーコンバージド インフラとしては、機器同士の接続性や認証、サポートの有無など余計なことに煩わされることなく、本来やるべきところに時間がさける、というメリットを実感しました。従来型のサーバとストレージでは、今回の構築期間の 1.5 倍は優にかかったでしょう。そして、仮に障害があっても一気通貫でサポートされる、という安心感も大きいです。」(神原氏)

### つなぎやすく、すぐ見える環境を構築できる FI の有用性

また、当初期待された外部ストレージとの接続に関しても、FI のメリットは大きいという。「移行時や運用にあたり、データの一次退避先としてもストレージには余裕を持ちたいのです。仮想プラットフォーム上にある他社製ストレージとの FI による接続も、つなぎやすく、すぐに見える環境、という点で期待通りでした。」(神原氏)

## 新たに構築したシステム基盤の構成イメージ



## Cisco HyperFlex システムの主な特長



### シンプルさ

- コンピューティング、ストレージ、ネットワークの構成要素を統合
- VMware ESXi を事前インストール済みのため、システムのセットアップが非常に容易
- 管理ツールは VMware vCenter に統合でき、シングルポイントの管理に対応
- クラウド型システム管理サービス Cisco Intersight でマルチサイトの一括管理が可能

### 柔軟性

- コンピューティングとストレージの構成要素は、利用状況に応じて独立した拡張が可能
- 無停止のローリングアップグレード、ノードの追加、拡張が可能
- インライン重複排除、インライン圧縮などの機能を標準で備え、ストレージの最適化と高効率のリソース運用が可能

### 経済性

- エンタープライズレベルのデータ保護による TCO の確保
- ローリングアップグレードが可能 (データ移行コスト排除)
- シスコのフルサポート、サービスを提供

## 結果～今後

「ビジネスのアジリティが高まる中で、安定して動く、予測可能なシステムがある安心感は大い」（神原氏）と、期待通りのメリットを感じた同社は現在、国内グループ各社のデスクトップ環境及び、インフラまでを含めた IT システムの全体最適化を進めています。今後の展開としては「データセンター内のみでなく各拠点、BCP 観点でも柔軟性を高める際に最後に残るのがネットワーク」であるとして、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) など、SDN に関しても方向性を定め、近々に実施していくとのこと。最後に、シスコへの期待に関して神原氏は「ネットワーク機器メーカーからターゲット部分に領域をシフトしてきている印象。その中で、新たな領域でのサービスと、構築パートナーとのエコシステムにも期待したい。」と語りました。

### その他の詳細情報

Cisco HyperFlex システムの詳細は [www.cisco.com/jp/go/hyperflex](http://www.cisco.com/jp/go/hyperflex) を参照してください。

# 日本ペイントホールディングス株式会社



**所在地** 大阪市北区大淀北 2-1-2  
**創業** 明治 14 年 (1881 年) 3 月 14 日  
**資本金** 788 億 6 千 2 百万円  
**従業員数** 単体：230 人 連結：20,257 人 (2017 年 12 月 31 日現在)  
**URL** <https://www.nipponpaint-holdings.com/>

私たち日本ペイントホールディングスグループは、1881 年に当社の前身である光明社が我が国初の洋式塗料を製造して以来、130 年以上にわたって日本の塗料業界のリーディングカンパニーとして歩み、日本経済の成長の一翼を担ってまいりました。お客様が活躍の舞台を広げるとともに、私たちも製品・サービス分野を拡充し、アジアを中心に世界に進出。現在では塗料とファインケミカルの 2 つの分野で事業を展開し、アジア・北米・欧州に拠点を設けています。そして私たちは、2014 年 10 月に持ち株会社体制に移行し、世界を見据えた新たな成長のステージに挑戦しています。

日本の塗料業界のリーディングカンパニーから、  
世界の塗料業界のリーディングカンパニーへ。

私たちは、世界に「Nippon Paint」の名を広げてまいります。

©2018 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は 2018 年 4 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー  
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先